

『一億人の英文法』 part3 chapter2 形容詞 pp.231-245

◆形容詞とは：名詞を修飾する表現のこと

- (1)前から・・・限定ルール
- (2)後ろから・・・説明ルール
- (3)なんでも・・・形容詞以外でも OK

SECTION 1 前から限定

(1)Look at the () girl over there. (あそこのかわいい女の子、見てごらん)
(2)Naomi is a () () () student . (直美は賢いけど怠け者の学生だよ)
(3)Look at that () () top . (あの綺麗な絹の上着見てみなよ)

- (1)ただの女の子ではなく、かわいい女の子だと**限定**している
- (2)形容詞は接続詞を使ったりして、重ねて修飾することができる
- (3)形容詞を接続詞なしでそのまま重ねるケース(名詞への「近しさ」に基づく)

限定詞	形容詞					名詞
	感想・評価	大きさ	新旧	色	材料・所属	
a	gorgeous		young	blond	Swedish	girl
my	comfortable		old		leather	armchair
this		big		yellow		bird

Ex. I have a () **daughter**. (限定型)

←数値を含む語が前から修飾するとき、複数の-s が落ちる

My **daughter** is 5 **years** old. (説明型)

(僕には 5 歳の娘がいます)

SECTION 2 後ろから説明

(1)She is () () (). (彼女はキレイで親切です)
(2)I've tried everything (). (できることはぜんぶやったよ)

- (1)be 動詞文
- (2)be 動詞文以外の場合。「足りない」という意識から説明

★前から専門・後ろから専門

・ほとんどの動詞がどちらの位置もとる中、どちらか専門のものが中にはある…

【前から】

This is my () son. …×My son is ().

→限定の意味を持った単語、ほかにも main, mere, chief, former など

【後ろから】

I'm () of spiders. …×the () girl

→説明に特化した単語、ほかにも asleep, alive, awake, alone など

★前位置特有の意味を持つ語

My () grandfather. (私の亡くなった祖父)

I was () for the class. (授業に遅刻した)

→ほかにも present(現在の), old(昔からの), certain(ある、一定の)などがある

SECTION 3 なんでも形容詞

(1) We have to do everything to prevent () abuse.

(児童虐待を防ぐために我々はあらゆることをしなくてはならない)

(2) There are many () countries.

(英語を話す国々はたくさんある)

(3) () English is sometimes different from () English.

(英語の書き言葉は話し言葉と時々異なる)

(4) That game was really ().

(本当にわくわくするような試合だった)

(5) I was really () watching that game

(試合見ながらほんとにわくわくしたよ)

(1) 名詞でも、abuse の前におけば虐待の種類を限定する

→「形容詞」という機能は、名詞の前後という位置によって与えられる

(2) -ing 形は「～している」という躍動的状況を想起させる形。本物の形容詞とは違って、がちやがちやしやべっている感触がある

(3) 過去分詞形は「受動(～される)」。Write(書く)から written(書かれた英語)というニュアンスがある

※過去分詞系は受動が主であるが、まれに完了の意味で用いられる

→fallen leaves (落ち葉)

(4)(5) -ing 形は感情を呼び起こす原因、過去分詞形は感情を呼び起こされた人について用いる。

→他にも surprise, satisfy, worry, disappoint など同じように感情を表すことができる